

### 13) ユーカリノキ=有加利樹

ユーカリはフトモモ科ユーカリ属の総称で、常緑大高木となるものが多い。原産地はオーストラリアで、幹はまっすぐに伸びて高さは50mに達する。枝はよく分枝してよく繁る。学名は『*Eucalyptus globulus*』で、属名は「eu=良く・強く」と、「calyptos=被う・蓋をする」との造語で、乾燥地によく繁る常緑樹であることによる。しかしこれには異論もあり、花卉と萼が合着して蓋をしたように見えるところから、とする説もある。種小辞は小球形の意味で、和名の由来は属名を短縮したものである。フトモモ科は3,000種以上からなり150もの属に分けられ、大部分が熱帯から亜熱帯に分布する。特に東南アジア、オーストラリア、南アメリカに多く、日本では南西諸島や小笠原諸島にこの仲間が自生する。またユーカリ属は500種を超えるがコアラが食べるのはこのうちの12種に限るといふ。夏、枝先の葉腋に径4cmほどの緑白色の花を付け、果実は表面がざらついた倒卵形で堅い。

ユーカリはオーストラリアの主要な樹木である。成長が早く常緑樹であるために世界のあちこちでも植林され、街路樹や船舶用材、建築用材として利用されている。オーストラリアでは森林の4分の3をユーカリが占めているとも言われている。近年では、パルプ用チップとしても用いられ、ユーカリの森林破壊が急速に進み、コアラの生息環境も危機にさらされている。しかしその一方では、根を地中深くまで伸ばして地下水を引き寄せる力が強いいため、インド北部のパンジャブ地方では砂漠化した地域の緑化に利用され、わずか5年で緑が蘇ったという成功例もある。

ユーカリの樹皮や葉にはユーカリ油が多く含まれ、これは解熱剤としての効果があり、チフス、ジフテリア、マラリア、しょう紅熱などに用いられてきた。オーストラリアの先住民族であるアボリジニ人は傷を癒すのにこの精油を用いたという。葉を蒸留して得られるユーカリ油はシネオールなどの精油分を多く含み、抗ウィルス作用や、強い殺菌作用があるために、薬用、香料、駆虫剤さらには糖尿病などにも用いられている。また呼吸器に役立つために、室内に蒸発させて気管支炎や喘息の治療に吸飲する。現在では健康茶やアロマセラピーなどにも広く利用されている。

オーストラリアではブルーマウンテン、ブラウンマウンテン、ブラックマウンテンなど、色彩を表した名称の山が多く知られている。これらの山は90%がユーカリの樹木で覆い尽くされており、ユーカリから発生する精油成分が太陽光線に反射して、山をこのような色に染めあげるからだと言われている。

日本にユーカリが伝来したのは明治10年(1877年)のことで、今ではあちこちに植えられて大木に成長している。埼玉県加須市の不動岡高校の校庭にはこの樹の並木があって、夏には心地よい木陰を作っている。また県立浦和第一女子高校にも大きなユーカリがある。一方、千葉県佐倉市にはユーカリが丘という住地団地が造成され、今では瀟洒なたたずまいを作っており、日本で最初の新交通システムが導入されている。



ユーカリは日本では珍しい木に属するが、ここ小金井公園には大樹が 2 本ある。





これもかなりの大樹だが、前頁の木の方がやや大きいようである(東京都小金井公園)。





埼玉県にはユーカリ樹が多い。特に不動岡高校の校庭では並木をなしている。浦和第一女子高校の校庭にも 50 年を超える立派な大樹がある。写真のユーカリは埼玉県立動物園でコアラを飼育する話が持ち上がったとき、食樹のユーカリが埼玉県で育つものか？ためしに植栽して以来 30 数年、成長が早くこんな大樹になってしまった。(さいたま市緑区園芸植物園)。 [目次に戻る](#)